

平成27年度「みえの現場“やっぱし” すごいやんかトーク」(いなべ市)の概要

平成28年2月19日(金)に、いなべ市北勢町阿下喜のウッドヘッド三重で、「みえの現場“やっぱし” すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「あげきのおひなさん」の準備・運営を行っている、同地区の商店街のおかみさんを中心とした『はなもも会』の皆さん」10名に、活動のやりがいや課題などについてご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

代表から、団体の活動について紹介していただいた後、メンバーの皆さんから、自己紹介をしていただきました。

(活動紹介・自己紹介)

○今年であげきのおひなさんは12回目。第3回目にいなべ市商工会のお手伝いとしてはなもも会を結成した。当初は七段飾りを並べる程度だったが、家で飾らなくなったお人形を譲り受け、今では倉庫にぎっしりと入る程になった。

○もともとは、商工会の役員の方が、おひなさんだったら、このあたりはだいたい皆さんが持っているし、お金もかからない。それで地域おこしができるんじゃないかという感じで始められたそうだ。

○おひなさんが増えるうちに、一度、檀をやってみようとなり、だんだん、もっともっとという感じで22段800体という大ひな壇にまでになった。大ひな壇は今年で3回目だが、今まで下から2段だったお道具の1段をおひなさんに変えたり、去年よりもっと詰めて置くなどしており、おひなさんの数は今年が一番多い。

○終わると来年はどこをどうしましょうって感じで、5月から月1回集まり、1年

間頑張っている。

○皆さんに喜んでもらい人形も喜んでいると思う。これがおかみパワーかなと思う。

○おひなさんを通じいろんな方と出会い、学び、自分磨きができたことが良かった。

○自分の伊勢湾台風に浸かったおひなさんも、再び日の目を見ることができた。また、小さい頃、祖母から教わったさるぼぼ作りもこの機会に活かすことができた。孫にもそれを教えていきたい。

○今年、我が家に女の子の孫が誕生したので、大きくなったら是非一緒にこのおひなさんを回りたい。私もつるし飾りなどを作っているが、娘も鞠に布を巻いて手伝うようになった。親子共々参加できて、一生懸命やっている。

○男の子ばかりで縁が無かった我が家にも、おひなさんを飾ることができとても嬉しい。

○大変なことが本当に多い。こうやって知事と喋ることもそうだが、とてもできないことができたり、毎年自分の作品がひとつずつ増えていくのがとても嬉しい。

○今までは、いなべ市にあるものとして、藤原岳か三岐鉄道ぐらいしか説明できなかったが、あげきのおひなさんができ、自慢できることがとても嬉しい。

○名古屋から引っ越してきて、知り合いも少ない時に、この会に誘っていただいて、たくさんの方ができ、とても嬉しい。不器用でなかなか上手く作れないが、教えてもらいながら少しずつ作品ができあがっていくのがとても楽しみ。

○この会に入って、随分地域のことが分かるようになってきた。宿題がたくさんあるので、途中でもう辞めようかと思った時もある。なかなか上手く作れなくても、みんなができないことを責めるのではなく、できることを褒めてくれるので、何とかやっている。

○地域の催しものが少なくなってきている中で、子ども達もすごく楽しみにして回ってくれている。

○ここは三重県最北端の地だが、あげきのおひなさんを通じて少しでも南の方から足を運んでいただいたら良いかなと思う。

○去年、商工会女性部の市町発表大会でこの取組を発表したが、三重県大会で優勝、そして中部大会では準優勝という結果を得ることができた。

【いなべ市長の発言】

○あげきのおひなさんも12年目で、ちょうどいなべ市もまる12年目になった。日頃、阿下喜の活性化に本当に活発に活動いただいている。

○これは、片づけが大変。私も「来てほしい」と言われているが、まだ来させていない。

Q 活動に携わって楽しかったこと、嬉しかったこと、あるいは自分の作品のこだわりなどをお聞かせください。

○知り合いの方が一番気に入ったつるし飾りの写真を見せてくれたときに、それがたまたま自分の作ったものだったことがあり、すごく嬉しかった。

- 県内外からたくさん来てもらって、帰り際やアンケートで、「また来年も来たい」「すごく良かった」という言葉をたくさんいただくやあって良かったな、苦労した甲斐があったなとすごく嬉しい。
- 旅行でたまたま一緒になった愛知県の方に、町並みの綺麗さや22段飾りの大ひな段などおひなさんのことを話したら、次の年にわざわざ見に来てくださった。
- 今年病気をしたので、無病息災ということでつるし飾りもひょうたんを入れたり、「苦が去る」ように「9匹の猿」を入れたりしてこだわりの作品にした。いつもは孫のためにしているが、自分が病気をしたら人に迷惑かけると思って、今年はずるし飾りにもそういう気持ちを入れた。
- 県内でひな街道スタンプラリーの取組をしており、スタンプ3つ目で景品がもらえるが、「ここは手作りなので、あげきが良いからあげきにする」とすごく喜んでもらっている。去年は、足らなくて途中で作った。
- 毎晩毎晩、寒い中、夜の7時半から9時半まで、2階の大ひな壇などをみんなで飾り付けする。昼間は商売をして、夜の食事の準備をして、介護もして、大慌てで、自分のご飯を食べずにここに来る。今日はちょっとやめたいなと思ってもみんな来てくれるのでやっぱり行かなあかんと思って。風邪を引きかけたり体が疲れてきたなという時もあるが、おひなさんのおかげでパワーをもらってまたこの期間中も乗り切れるかなといつも思っている。
- 在所に置いてあった自分のおひなさんをこちらに持ってきて50年ぶりぐらいに飾った。母親がすごく喜んで、おひなさんを見るために毎年阿下喜に来てくれるようになったので、ありがたい事だな、親孝行できたなと思っている。
- 不動産業で賃貸の仲介もしているが、お客さんにおひなさんのこととか、いなべ市が頑張ってる人を誘致しているというお話もでき、仕事にも活かしている。
- 来てくれた友達から「阿下喜の人はみんな親切。本当にすぐ声をかけてくれ、優しくしてくれる。良い所に住んでるね」と言ってもらえるのがとても嬉しい。
- 自宅の廊下に10m~20mくらい飾っている。最初の頃は、出かけるたび、行く先々で、珍しいおひなさんを見つけては買い付けて並べていた。また次の年も違うものが欲しくなって、結構な量になった。
- この時期になると「この前新聞に載ってたね」とか「頑張ってるね」など、親戚、お客さん、友達などから声をかけていただくので、すごく嬉しく頑張ろうと思う。
- 亡くなられた姑さんがとても手先が器用で、つるし飾りなどをすごく残してくれており家でも飾っている。そのことは阿下喜の人にも知れていて、「おばあちゃんが今みえたら喜ぶのにね」とか言葉をかけてくださる。私も孫に女の子がいて、壇のおひなさんはいらないとのこと、代わりに頑張ってる木目込みのおひなさんを作ったら、喜んでくれたのがとても嬉しい。

【いなべ市長の発言】

- 阿下喜という町はいなべの中で唯一残った商店街なので、守っていかないと、というもある。あげきのおひなさんが、本当に浸透してきたので非常に嬉しい。

Q 活動の課題、これからの夢みたいなものをお聞かせください。

○町のお祭りみたいに大きくなって、「私、空いているからお手伝いしますよ」と積極的に言ってもらおうとか、町ぐるみでおひなさんが出来れば素晴らしいと思う。

○私たちのほとんどが、今は 60 代。これだけの企画に成長してきており、続けていきたいという夢、希望はあるが、だんだん高い所に上るのも危なくなってきた。みんないろんなところが痛いと言いながらやっているが、後継者をどのように募っていったら良いか、中々上手くいかない。良いアイデアがあったらいろんな方に教えていただきたい。

○若い人に入ってもらえるとありがたい。

【知事の発言】

○みなさんが本当にこの会の活動やおひなさんからパワーをもらって日々楽しく過ごしていただいている、地域のために頑張ろうと思っていただいている様子が大変よく分かった。

○今後もこのあげきのおひなさんが長く続いて、この季節のいなべ市の風物詩、北勢地域のいろんな風物詩になるようにみんなで頑張ってくださいと思いますし、私達も応援をしていきたい。

